



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

ブータン便り

第14号 2020年1月7日
JICA SV 2018-2 観光 白川 浩司

明けましておめでとうございます。年が明けて私の任期も残すところ10ヶ月となりました。今年もブータンから現地情報をお送りしていきますので、よろしく願いいたします。と申しておきながら、令和2年の正月は倉敷で迎えました。健康診断一時帰国制度を利用して一カ月間の休暇をもらえたからです。今号では、この制度のことをご紹介するとともに、一時帰国前にあった Bhutan National Day のことをお伝えします。

健康診断一時帰国

JICA ボランティアは2年の派遣期間中、一度は健康診断を受けることになっています。青年海外協力隊は JICA 事務所が指定する任国内の医療機関で受診しますが、シニア海外ボランティアは健康診断一時帰国制度を利用して日本で健康診断を受けることができます。これは1カ月間日本で休養できるうえに、任国から日本までの往復旅費も JICA から支給してもらえるというありがたい制度です。しかし残念なことに、シニア海外ボランティアは2018年度の派遣をもって廃止されたため、2019年度から派遣される JICA 海外協力隊は、たとえ年齢が46歳以上の方でも、健康診断一時帰国制度は利用できなくなりました。私は2018年度の派遣だったため、ぎりぎりこの制度の恩恵を受けることができたというわけです。

この制度を利用した場合は、帰国後3日以内に健康診断を受けなければなりません。私は先月20日に JICA と契約している新宿三井ビルクリニックで受診しました。健診結果は JICA 本部に送られ、顧問医の判定を受けてから再赴任の可否が決まります。健康状態によっては再赴任が認められず、任期短縮、活動終了となってしまうこともあるそうです。いい制度ではありますが、ある意味両刃の剣でもあるため、健康に自信のない人は利用しないこともあるとか。私も少しドキドキしながら年末年始を過ごしていましたが、このほど青年海外協力隊事務局から任地に戻ってよいとの連絡があり、ほっとしたところです。

National Day

2019年12月17日は112回目の National Day（建国記念日）でした。112年前のこの日に初代国王戴冠式があったことから、12月17日を National Day と定め、国を挙げてお祝

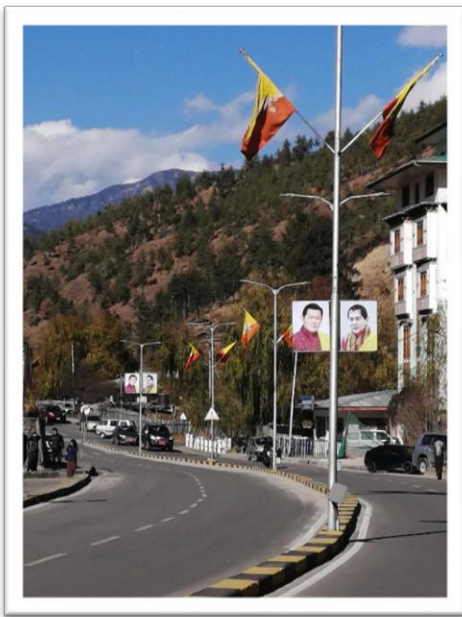
いています。

National Day Celebration

国王陛下や王室の方々がご出席される記念式典は毎年どこかのゾンカク（県）で開催されますが、2019年はそれがティンプーのチャンリミタン競技場で行われました。それに先んじて市内には国旗と4代・5代国王両陛下の写真が掲げられ、式典の予行演習が繰り返し行われていました。

式典当日は朝6時に出向いてみましたが、すでに約2万人を収容できる会場は満杯で、ゲートの前には中に入れなかった人で溢れかえっていました。National Dayを国王陛下と共に祝いしようという人々の熱気に圧倒されてしまいました。

記念式典の様子はブータン国営テレビで生中継され、メディアやSNSでも大きく取り上げられました。中でも国民を驚かせたのは、国王陛下がスピーチの中で、王妃殿下の第2子ご懐妊を発表されたこと。それを聞いたブータン人が沸きたったことは間違いありません。私は国王陛下のお話を直接聞くことはできませんでしたが、この国は王室を中心に国と国民が強く結ばれていることを改めて感じさせられました。



National Day 前のティンプー市内 人で溢れかえるチャンリミタン競技場ゲート前

112th National Day Build Up Programme

National Dayに先駆けて、12月15日から17日まで、チャンリミタン駐車場の隣にあるセンテナリー公園では、ブータンの伝統文化や手工芸の展示とデモンストレーションコーナー、また全国20ゾンカクのご当地グルメを味わえる屋台村がオープンしました。内務文化省が中心となり省庁横断のタスクフォースチームが企画したものだそうですが、ブータンらしいものが全部凝縮されたようなイベントでかなり見ごたえがあり、楽しめました。



伝統建築のデモンストレーション



土壁を固める女工の踊り



各ゾンカクのご当地グルメが味わえる屋台村



ブータンのプタ（そば粉の麺）



砂のマンダラを制作する僧侶



トルマという供物を制作する僧侶



伝統的な織物の実演



子どもの遊び場もありました